ガソリンの取り扱いに注意してください

消防本部予防課　TEL 35-2020

ガソリンは火災発生の危険性が極めて高く、一度火が点くと爆発的に延焼拡大します。
８月15日㈭に、京都府福知山市の花火大会会場で火災が発生し、３名の方が亡くなり、57 名が負傷しました。
原因は、露店の発電機用に保管されていたガソリン入りの携行缶の蓋を減圧しないでそのまま開けたため、気化したガソリンが周囲に噴き出し、直後、露店のカステラ焼き器にかかり、引火した可能性があると考えられています。
ガソリン等の使用に際しては、油種それぞれの性質を知り、次の点に注意しましょう。

ガソリン等の貯蔵・取り扱いの注意点

▽ガソリン使用機器の取扱説明書の留意事項を厳守すること。また、エンジン稼働中の給油は厳禁。
▽静電気による着火を防止するために、金属製容器で貯蔵するとともに、地面に直接置くなど静電気の蓄積を防ぐ必要があります。
▽ガソリン容器からガソリン蒸気が流出しないように容器は密閉し、火気や高温部から離れた、直射日光の当たらない風通しの良い場所に保管すること。
▽容器の取り扱いの際には、開口前の圧力調整弁の操作等、取扱説明書等の操作方法に従い、こぼれ、あふれ等がないよう細心の注意を払いましょう。
▽ガソリンや灯油・軽油の火災は水で消すことが出来ません。ガソリンなどは「油」であるため、これらに水をかけると、火が点いたガソリンなどが飛び散ったり、水より軽いガソリンなどが水の上に拡がり火災が拡大する恐れがあります。水での消火は絶対やめましょう。

容器に注意

ガソリンの貯蔵に適した容器の例
＊金属製容器であることが必要

ガソリンの貯蔵に適さない容器の例
＊樹脂性容器は火災の危険性が高い

適切な消火器で消しましょう

白　木材　紙　繊維等
普通火災

油類火災

電気火災

消火器を選ぶポイントは、消火器がガソリンなどの火災に対応していることを確認することです。
消火器にはどのような火災に対応できるかを示す「ＡＢＣ」マークやイラストが表示されています。
ガソリンなどの火災には、ガソリン、灯油などの油類の火災に対応していることを示す「Ｂマーク」やイラストが表示されている消火器を使いましょう。
なお、「Ａマーク」は木材、紙、繊維などの普通火災、「Ｃマーク」は配電盤、コンセントなどの電気火災に対応していることを示しています。